

「第4回徳山ダムモニタリング部会」審議内容メモ

日 時：平成20年11月27日（木） 14:00～16:00

場 所：名古屋通信会館 菊の間

出席者：（委員）駒田部会長、阿部委員、西條委員、中村委員、野平委員、藤田委員、
前田委員、松尾委員（五十音順） 8名
（事務局）19名 （一般傍聴）6名 （報道機関）2社

【審議内容等】

1. 前回（第3回）部会の審議内容等の確認
 - ・第3回モニタリング部会（平成19年11月5日）の審議内容を確認した。
2. 徳山ダムの管理状況について
 - ・徳山ダムの管理状況（試験湛水並びに管理移行後の洪水調節、流水の正常な機能の維持、かんがい用途）について報告がなされた。
3. モニタリング調査について
 - ・モニタリング調査の概要について説明がなされ、審議し、以下のとおり指摘した。
 - 1) 徳山ダム・横山ダムの個別の洪水調節効果について説明があったが、徳山ダム供用前後での相違がより明確になるような資料を作成すること。
 - 2) 水質について、試験湛水中の流入・放流水及び貯水池内の調査結果と試験放流中のダム下流河川の調査結果の報告がなされた。貯水池では、植物プランクトンの増加や底層での貧酸素化等もみられていること、一般にダム湖の水質は少なくとも湛水後3年くらいは安定しないものであること等から、今後も注意深く観測を継続すること。なお、植物プランクトンの種類・細胞数等と水質との関係について検討すること。
 - 3) ワシタカ類について、基本的に3年間の調査結果を基に湛水後の評価を行うが、A3つがいについては、必要に応じて調査を継続すること。また、新しい知見（GPS）に基づく人工衛星追跡調査の手法についての提言がなされた。
 - 4) コア山での植生回復について、ススキの播種による植生回復は所期の目的を達したと考えられるので、今後、繁茂しすぎないように動向に留意すること。また、表層土壌の変遷にも着目すること。なお、ダムサイト法面への導入種のなかで在来種として採用したクサヨシの動向を整理し、湖岸水位変動域の植生回復に用いることを検討すること。
 - 5) 移植したエゾエノキについて、定着率は3割程度であり、順調に定着しているとの調査結果を了解した。オオムラサキは、成虫での確認が難しいことから、晩秋に幼虫で確認することを検討すること。
 - 6) 魚類・底生動物について、貯水池内、ダム下流河川及び環境保全河川における現在までの調査結果を了解した。今後、環境保全河川については過去5年程度のデータで動向を整理すること。
4. 審議内容の確認
 - ・本日（平成20年11月27日）の審議結果を本メモに基づいて確認した。

以 上